



南小ホームページ QR コード

晴天に恵まれた運動会も無事に終わりました。当日は、朝早くから子ども達へのご声援ありがとうございました。

『書くこと』に困り感をもつ児童について

＊今月から、学習に必要な『書くこと』『話すこと』『見ること』についてお伝えします。

お子さんの様子をご覧になり、他の教科は問題ないのに、文字を書くことがうまくできないということはありませんか。

- ☐ 漢字の「へん」と「つくり」を逆に書く。
 - ☐ 漢字の線（画）が足りない／多い。
 - ☐ 文字のバランスが取れない。
 - ☐ 文字の書き順が不自然。
 - ☐ 文字の形が乱れたり、マス目からはみ出したりしてしまう。
 - ☐ 「ね」と「ぬ」、「ン」と「ソ」などの似ている文字を間違えて書く。
 - ☐ 拗音（「きゃ」「きゅ」「きょ」など）、促音（小さい「っ」）、撥音（「ん」）の誤りが多い。
- 例：○「しょうがっこう」→×「しゅがこう」 ○「べんきょう」→×「べきょう」
○「きって」→×「きて」 ○「にんじん」→×「にじん」など

上記のような状態が続くことによって、「①書くのに時間がかかるため、先生が黒板に書いた文字をすべて写すことができない。」「②文字を書くのに努力がいるため、長文がかけず、短文になってしまう傾向がある。」などといった困り感が出てきます。

もし、お子さんが『書くこと』に困り感をもっている場合、次のような支援をすると、困り感が少し和らぐこともあります。

- ① 「なぞり書き」ができる練習帳やドリルなどを使う。
- ② 漢字の構成要素を声に出して言いながら書く。例：「球」＝「王」＋「求」
- ③ 漢字をイメージで覚える。例：「杉」＝「木と3本のひげ」
- ④ マス目の入ったノートを使う。（書きやすい大きさのマス目のノートを見つける。）

＊その他の手立てとして、文字を書きやすいよう、しっかり握れる「三角鉛筆」や芯の柔らかい鉛筆（4B や6B）を使うことなどもおすすめです。

もし、上記のようなことでお子さまが困り感をもたれていたら、気軽にご相談ください。

*** 来月のテーマは、「話すことに困り感をもつ児童について」です。お楽しみに！

★★



おすすめの本

